

卒業專題: 辯論比賽介紹

2016.6.6

富田哲

- 今年度は「第7回東吳盃日本語ディベート大会」として、5月6日に東吳大学で開催。8大学12チームが参加。
- 論題は「台湾は原子力発電所をゼロにすべきである」。来年度の論題は未定。
- 来年度、4月～5月に第8回大会を(おそらく)淡江大学で開催。

- 今年度は6名の学生(4年生5名、3年生1名)が参加。
- 大会直前には、景文科技、東呉、東海との練習試合を実施(含スカイプ)。
- 来年度の参加希望者は学期明けに富田に問い合わせること。
- 指導担当(予定)は星友康先生、王嘉臨先生、富田。

☆大会の目的

- 「本大会は、台湾の高等教育機関で日本語を学ぶ学生の日本語能力、及び論理的思考能力、批判的思考能力、傾聴能力、情報収集・分析・活用能力、口頭発表能力の向上に、ディベートを通して寄与すること、また、説得力及びコミュニケーション力を重視し、日々の日本語学習活動の活性化を図ることを目的とする。」⇒総合的な日本語能力の養成

☆卒業專題でディベートにとりくむ意義

- 「自分の主張/意見」→「理由」→「根拠」という論証の訓練をつむことは、卒業後の職場でもおおいに役に立つはず。例：プレゼンテーション、レポート。
- ディベートの準備過程は、まさに論文を執筆する際の手続きともかさなる。→ディベート経験者で修士課程に進学した者も過去に多数。
- チームとしての取り組み→他の学生や指導教員との熱い議論や協力、信頼関係の構築。

- 参加の条件：最後まで責任を持って取り組むことができる学生。当然、試合にも出場するつもりで。

- 詳細については富田に遠慮なくおたずねください。

114520@mail.tku.edu.tw

26215656 轉3191

参加をおまちしています！

